

悲しめる乙女の像

若くして亡くなった人々を偲ぶ像

1953 年 7 月 20 日、この山の川の洪水によって極めて大きな地滑りが発生しました。巨大な岩が多数山から転がり落ち、猛スピードで地元の学校の教員住宅に突っ込み、教員の妻と、校長の息子と娘の 3 人が命を奪われました。

岩に腰掛け、手で顔を覆った悲しめる乙女の像は、1960 年に作られたものです。家族を亡くした太田美明校長が、この碑文を刻みました。そこには「白い雨が降るとぬける、雨に風が加わると危ない、長雨後、谷の水が急に止まったらぬける、蛇ぬけの水は黒い、蛇ぬけの前にはきな臭い匂いがする。」という、この地方の庶民の生活の知恵に基づいた、土石流が最も発生しやすい状況を要約したものが書かれています。

岩のこちら側のポストにあるボタンを押して、3 人の若い犠牲者を偲ぶ歌をお聞きください。この歌は、校長が歌詞を書き、音楽教師が作曲したもので、その感動的な歌詞は、木曽谷の子どもたちの四季の生活を描いています。